# 生存科学研究ニュース

VOL. 15. NO. 4　2000. 7. 10発行

発行　財団法人　生存科学研究所



〒104-0061　東京都中央区銀座4-5-1
電話　03-3563-3518　FAX 03-3567-3608


## 理事会・評議員会報告

平成12年5月18日（木）2時より、教文館9階会議室において平成12年度第1回理事会ならびに評議員会が開催された。

理事会は13名のうち出席者13名（委任状によるものを含む）、評議員会は19名のうち出席者11名（委任状によるものを含む）で本会は有効に成立した。

理事会の議長には江見康一理事長が、評議員会の議長には向山定孝評議員が就任し、審議が行われた。

主な議題は

（1）平成11年度事業報告について

（2）平成11年度収支決算について

であった。

江見議長より平成11年度事業報告ならびに収支決算について報告が行われた。その後、理事会、評議員会ともに熱心な審議を行い、報告通り了承した。

## 第2回常務理事会報告

平成12年6月29日（木）午後2時より生存科学研究所会議室において常務理事会が開催された。

江見理事長より、

自主研究中長期基本構想委員会をはじめとする自主研究

生存学研究会

川崎病研究会

21世紀医療システム研究会

銀座ナイトセミナー

21世紀世界の文明と生存の研究会

生存科学としてのﾊﾞｲｵｴｼｯｸｽの構築

形態生存医学研究会

そして共同研究A（川崎病研究：日本川崎病研究ｾﾝﾀｰ）、共同研究B（レオンチェフ文庫：中央大学）の活動状況の報告があり、

生存科学講座

生存科学ニュース

学術誌『生存科学』の編集の進捗状況についての現況報告も行われた。

## 平成12年度第1回 21世紀医療システム研究会報告

表記研究会が平成12年6月19日（月）午後5時半より生存科学研究所会議室において開催された。

出席者：江見康一、二木立、府川哲夫
藤井良治、向山定孝、西三郎

テーマ：「最終報告書のまとめと執筆分担」

1．委員長より予め配布されていた報告書（案）の構成内容のうち、各委員がどの部分の執筆を希望するかについて予め提出された案について検討した。

2．江見委員長は、医療システムについては、大きく医療供給制度と医療保険制度との二つの柱があり、両者の円滑な結び付きによって国民の健康と福祉を持続的に守る為の手段・方法について提言することが研究目的であると述べた。そのさい、医療供給に影響する医学・薬学の進歩、IT革命のインパクトへの考慮、医学・看護教育の在り方、病院経営の特性と病診連携の地域ネットワークにふれた。又需要要因として、患者の疾病構造と家族の態様、生活様式の都市化、少子・高齢化社会の進行の影響等をあげ、これら需給を取り結ぶ支払い機構としての医療保険制度と、実際に受診の場となる診療圏の状況など、これらすべての要因をつなぐ鳥瞰図を描き、その中における意志決定機構としての各種審議会の資源配分機能に言及した。

3.以上の医療システムについての共通理解にもとづいて、研究参加者の分担は次のように定められた。

21世紀医療システムの展望　江見康一

技術革新と医療

1）IT革命、産業ビッグバンと病院経営　二木　立

2）遺伝子治療の与える影響について　向山定孝

少子・高齢化と医療供給体制　藤井良治

老齢保障の総合化 -保健･医療･福祉(介護)の連携について-　府川哲夫

ﾈｯﾄﾜｰｸ社会と医療の需給体制 -地区医師会の役割について-　西　三郎

21世紀の診療報酬体系　江見康一

当日欠席された委員のうち、長谷川委員には「医療資源配分の国際的視点」、赤沢委員には「薬価基準をめぐる諸問題」について担当して欲しいとの要望が出された。

（江見康一）

## 第8回銀座ナイトセミナー報告

2000年6月22日（木）18：00より、銀座の生存科学研究所で、日本大学芸術学部の藤原成一教授を講師に招いて、第8回銀座ナイトセミナー・生きるシリーズ「日本文化史研究者の『生きる』」が開かれた。藤原氏は、編集者として思想・宗教・歴史・民俗学・人類学・芸術など多岐に渡る仕事をされてこられ、雑誌「仏教」の編集人も8年間務められている。大学の専門は日本文化史で、古典文学を題材にして、日本人がどのような死を「望ましい死」と考えてきたのか、日本の伝統的なサナトロジー（死学）の概念について話された。

藤原氏によれば、日本人が「望む死」とは「美しく死ぬ」ことに尽きるという。それ

は、清らかで清明な死を迎えることを意味し、そのためには、持ち物や人間関係をきれいに整理して、自然に帰る準備を行わねばならない。身辺をきれいにするということは、「とらわれをなくす」ということで、このことを藤原氏は「諸縁を止めよ」（徒然草）というキーワードでまとめられた。

諸縁を止めて社会から身を引いた後は、それまでの生活と違った「もうひとつの自分」を見つける作業に入る。そのひとつが隠居。隠居後は、社会との交わりを絶って清浄そのものの存在と考えられてきた自然の中に身を置き、死が訪れるまで、風流の世界に遊ぶことになる。また、地元のコミュニティとの縁を切って仏を求めて旅に出る巡礼なども、同様な行為と解釈される。

整理するという点では、自らの煩悩も整理し、この世に想いが残らないようにしなくてはならない。それを実行した人物として、奈良の多武峰にいた増賀上人の例を挙げられた。上人は自らの臨終に当たり、まず弟子に碁盤を持ってこさせて数目打ってみせ、次に泥よけ用馬具の障泥（あおり）を持ってこさせて、それをつかんで少し遊んでから、いずれも弟子に持って下がらせた。

そして「もうこれで思い残すことはない」と言ったという。上人の奇怪な言動を怪しんだ弟子が、その意味を問うと上人は、「小さい頃、人が碁で遊んでいるのを見て自分も一回やりたいと思っていた。あおりも、酒に酔ってあおりを持って踊っている人を見て、自分も一度やってみたいと思っていた。みんなやったので、もう思い残すことはない」と答えたという。

藤原氏は、日本文化史上、最も理想的な死に方をした人物として西行を挙げられた。西行は「ねがはくは花の下にて春死なんその如月の望月のころ」という生前の自らの句の通り、きれいに死んでいった。

蛇足だが、藤原氏は筑摩書房で編集者をされていた時、三十数年前に担当されたのが、この会に出席されていた高橋晄正氏の名著『現代医学』だったという。

高橋氏の方はすっかり忘れておられたご様子だったが、人には縁というものがあるもの、と改めて感じた次第である。

（津谷喜一郎／久保田裕）

## 第5回 21世紀世界の文明と生存の研究会報告

表記研究会が平成12年7月1日（土）午後6時より生存科学研究所会議室において開催された。今回は臨時の出席者（坂本なほ子氏：1999/2000武見フェロー）の参加を得て、山口大学の大林雅之氏に「文明論に突入するバイオエシックス」をテーマにバイオエシックスについての話題提供をお願いした。

まず、バイオエシックスの歴史的背景をアメリカの1960年に遡って解説し、さらに日本の現状に及んだ。1962年のシアトルでの血液透析機の配分をどのようにするかという具体的な問題をめぐってバイオエシックスの考え方が始まり、現在に至るまで具体的な生命問題の登場が先行してきたと指摘した。

1970年代以降、ニクソン政権の下で奨励されたガン研究における人体対象の実験での倫理的配慮、また遺伝子組換え技術の登場と一般化によって生命に関わる科学技術の倫理的側面が大きな問題となった。その後、ほとん

ど常に技術が哲学を超えるようになり、バイオエシックスによって何らかの解決を見ることはないのではないかという見解も多く、1985年あたりからある意味での反省期に入った。

日本では、日本の実情に根差した議論が少ないようで、輸入思想の紹介が多く、各施設で「倫理委員会」が設置されたものの、結局は現状の補完勢力としてしか機能しなかったのではないかという反省がある。

現在取り挙げるべき問題はさらに多くなっている。治療が不可能であるにもかかわらず、遺伝子診断だけができる状況、クローン技術のコントロールはどこまで可能か、特にＥＳ細胞に関連した議論、臓器移植、個人の生命情報の管理等々、本来的にバイオエシックスとして考えなければならない領域は大きい。にもかかわらず、現実問題を追うのみで、本質問題として捉えられないうらみがある、と述べた。

われわれの、近未来の像を描いて見ると、むしろ暗い世界しかないのではないかと思われる。21世紀の文明と生存を考える立場で、従来の歴史の進歩観を乗り越えるような、単に議論ではなく、「未来からの反射」として現在を捉え、運動としてのバイオエシックスを構想したいという、貴重な問題提供であった。（丸井英二）

## 「武見賞」推薦・応募のご案内

公益信託武見記念生存科学研究基金では、平成12年度の「武見記念賞」受賞候補者の推薦、「生存科学研究武見奨励賞」への応募を下記の要領でお願いしています。

1．趣旨

故武見太郎博士が創造した生存科学の普及・発展を計ることを目的に、生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげた方、あるいは現にあげつつある研究者または実践者を顕彰してその業績を称える。

2．賞の種類

（1）「武見記念賞」

生存科学とその関連分野で、顕著な業績をあげた研究者または実践者を顕彰する賞。受賞者は概ね60歳以上とする。

（2）「生存科学研究武見奨励賞」

生存科学とその関連分野で、創造的な研究や実践を行い業績をあげつつある方を顕彰する賞。

3．受賞候補者の推薦・応募

前記（1）の賞を受けるに相応しい方を、所定の「推薦書」用紙に所要事項を記載して、また（2）の賞に応募を希望する方は、所定の「申請書」用紙に所要事項を記載して、下記連絡先宛提出してください。なお、外国人のご推薦・応募はご遠慮願います。

4．受賞者数・賞金等

「武見記念賞」又は「生存科学研究武見奨励賞」のいずれかについて１名。賞金は一人50万円。副賞として記念品を贈呈。

5．募集期限

８月31日（木曜日）まで

6．選考方法

当基金運営委員会で審査し選考する。

7．選考結果の通知

10月末日までに、受賞候補者・推薦者並びに申請者に直接通知する。

▼ 連絡先　中央三井信託銀行株式会社
日本橋営業第一部公益信託室
〒103-0022　東京都中央区日本橋室町2-1-1
☎03-3277-7490（担当：陣(しま)）

## 研究所日報

| | |
|---|---|
| 5月18日(木) | 第１回理事会・評議員会 |
| 5月26日(金) | 第３回生存科学講座打合わせ |
| 6月１日(木) | 自主研究中長期基本構想委員会 |
| 6月19日(月) | 第１回21世紀医療ｼｽﾃﾑ研究会 |
| 6月22日(木) | 第８回銀座ナイトセミナー |
| 6月29日(木) | 第２回常務理事会 |
| 7月１日(土) | 第５回21世紀世界の文明と生存の研究会 |